

# 第13回 国際陶磁器展美濃

The 13<sup>th</sup>

International Ceramics Competition

Mino, Japan



募集要項

Application Procedures

# 第13回 国際陶磁器展美濃・国際陶磁器コンペティション 作品募集

The 13th International Ceramics Exhibition Mino, Japan  
OPEN CALL for The International Ceramics Competition Mino

## 審査員 Judges

### 陶芸部門 Ceramic Arts Category



菅谷 富夫  
Sugaya Tomio

審査員長  
The Chief Judge



田嶋 悦子  
Tashima Etsuko



ルパート・フォークナー  
Rupert Faulkner



クラウディア・カザーリ  
Claudia Casali



趙 惠暎(チョ・ヘヨン)  
Cho Hyeyoung

### 陶磁器デザイン部門 Ceramics Design Category



石崎 泰之  
Ishizaki Yasuyuki

審査員長  
The Chief Judge



吉田 龍太郎  
Yoshida Ryutaro



山田 節子  
Yamada Setsuko



パトリック・レイモン  
Patrick Reymond



横山 いくこ  
Yokoyama Ikko

各審査員のプロフィールはP10、11をご覧ください。  
Please refer to page 10 and 11 for the biographies of each judge.

## 基本理念

10,000年を越える陶磁器の偉大なる系譜に想う。私たちは今、陶磁器の精神と存在を再度、その歴史に学ばなければならぬのではないかと。かつて無造作に産みだされたものなかから、美を発見し、精神を与え、名器は生まれた。無技巧な碗ひとつにも、非凡を認め、色を感じ、感触を味わい、奇異でもなく主張することも無い形に宇宙を覗いたこともある。生活者の欲求と様式に合致し、新しい提案を示すものは、時代を超え輝き続ける生命力をもつ。

21世紀を迎えた今、大量生産、大量消費、新素材、新技術といった時代の荒波は、陶磁器の精神と存在をどの方向に導こうとしているのだろうか。技術至上の前に、創造力は失われていないか。生活者を優しく見つめる温かい人間愛を否定していないか。光輝あふれる陶磁器の偉大なる未来に誓う「国際陶磁器展美濃」は、高度な技術に裏づけられた創造力と限りない人間愛につつまれた未来への提案の場であり続けることを。

## Basic Philosophy

This contest is intended to give us the opportunity to reflect upon the traditions associated with ceramics, which is a large and vital activity that has extended over the past 10,000 years. It is of great importance that we renew our knowledge of the spirit and existence of ceramics through a study of its history. Outstanding pottery represents the discovery of beauty in and application of spirit to objects which were originally produced with no particular consideration of these qualities. Even in the simplest of bowls, we can recognize something extraordinary, feel the color, experience a profound tactile sensation; shapes that are neither magnificent nor strongly impressive in themselves can present us with a glimpse of the universe. Excellent ceramics that fit right into desires and lifestyles of people yet suggest innovative ideas hold the vitality that continues to shine timelessly.

Now that we are in the 21st century, we face an age of mass production, mass consumption, new materials, and new technologies. And we question ourselves. In which direction will the strong waves of our times sweep the spirit and existence of ceramics? Will creative powers be lost before the onslaught of technological achievement? Will we come to deny the warm humanity that connects and looks gently over people living everyday lives? We commit ourselves to making the International Ceramics Exhibition Mino, Japan, the site of a glimpse into a future blessed with creativity, backed by the ultimate in technical sophistication, and with the unlimited potential of humanity.

## ご挨拶

“国際陶磁器展美濃”は、陶磁器のデザイン・文化の国際的な交流を通じて、陶磁器産業の発展と文化の高揚に寄与することを目的に開催する“国際陶磁器フェスティバル美濃”のメイン催事で、1986年に第1回を開催して以来、今回で第13回を迎える国際陶磁器コンペティションです。

本コンペティションは、毎回、世界の著名な審査員によって審査を行っており、様々な国から応募があります。前回では世界64の国と地域から1,292名、2,435点にのぼる応募をいただきました。その規模と質の高さは、正に、現代の世界を代表するコンペティションであります。

このコンペティションにおいて選ばれた約200点の優れた作品は、2024年の10月から11月にかけて、岐阜県多治見市内のセラミックパークMINOで展示することとしており、国内はもとより海外からも多くのお客様をお迎えしたいと考えております。

近年、陶磁器の分野にも、新素材、新技術、領域のボーダーレス化などによる新たな発展が求められており、従来にも増した斬新な提案、そしてやきものの未来を切り拓く作品の応募を期待いたします。

国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会

## Greeting

“The International Ceramics Exhibition Mino, Japan” is the main event of the “International Ceramics Festival Mino, Japan,” which is held with the aim of supporting the growth of the ceramics industry and the enhancement of culture through the global exchange of ceramics design and culture. This is the 13th international ceramics competition since the first one was held in 1986.

Each competition is judged by a panel of distinguished judges from around the world, and entries are received from various countries. In the last competition, we had amazing 2,435 entries from 1,292 applicants coming from 64 countries and areas around the world. The scale and high quality made our ceramics competition truly the representative of the world today.

About 200 excellent works, selected from the competition, will be exhibited at Ceramics Park MINO in Tajimi City, Gifu Prefecture from October to November 2024. We hope to welcome as many guests as possible to view the competition, not only from Japan, but also from all over the world.

Recently, new developments have been required in the ceramics field with new materials, new technologies, and moves towards more borderless in the domain. We look for entries that suggest us more unconventional ideas and open the door to the future of the ceramics.

International Ceramics Festival Mino, Japan  
Executive Committee

## はじめに

このコンペティションに応募することにより、応募者は本募集要項に記載の各項目に同意していただいたものとして取り扱いますので、よくお読みいただき応募下さい。

本募集要項に記載されている内容は、やむを得ない事情により変更となることがあります。その場合は、主催者のホームページにおいて告知します。  
(<https://www.icfmino.com>)

## 募集内容

### 1 テーマ

「やきものの未来」

既成の概念にとらわれず、自由な発想でやきものの未来を切り拓く作品を求めます。

### 2 全体スケジュール

項目	時期
応募受付期間	2023年2月1日～2024年1月31日
1次審査: 画像審査 (入選候補作品の絞り込み)	2024年2月下旬
2次審査: 画像審査 (入選作品の決定)	2024年4月上旬
最終審査: 現物審査 (グランプリ以下各賞の決定)	2024年8月上旬(詳細は4ページ参照)
表彰式・内覧会	2024年10月17日
開会式	2024年10月18日
第13回 国際陶磁器展美濃	2024年10月18日～11月17日

### 3 募集部門

#### (1) 陶芸部門

自由な発想と手法による陶芸作品

#### (2) 陶磁器デザイン部門

- A ファクトリー分野(実用機能を有するファクトリープロダクト)  
企業等での応募(その企業等に属する個人・グループでも可)
- B スタジオ分野(実用機能を有するスタジオ(個人)プロダクト)  
個人・グループでの応募

### 4 応募作品の条件

- ① 「やきもの」を中心とした作品であること。
- ② 前回のコンペティション応募受付終了後(2020年1月11日以降)に制作した作品であること。
- ③ 他の公募展に入選していない作品であること。
- ④ 運搬及び室内での展示に支障のない大きさ・重量・形状の作品であること。  
(床面積4m<sup>2</sup>、高さ4m、重量100kg(組作品は1パーツあたり)までを目安とします)

### 5 応募資格

応募資格は特に設けません。どなたでも応募できます。

### 6 応募点数

各部門3作品まで応募できます。  
(同一の作品を複数の部門に応募することはできません)

### 7 応募登録料

応募に際しての登録料は不要です。

### 8 応募受付期間

2023年2月1日(水)～2024年1月31日(水)

### 9 公用語

このコンペティションの公用語は、日本語又は英語とします。

### 10 審査

このコンペティションの審査は、次の3段階で行います。  
審査において応募者情報は非開示とします。ただし、3ページ記載の〈坂崎重雄セラミックス賞〉の選定に際しては必要な年齢情報のみ開示します。

審査段階	審査方法	審査内容
1次審査	画像審査	作品画像を審査し、入選候補作品を絞り込む
2次審査	画像審査	1次審査通過作品の画像を審査し、入選作品を決定する
*2次審査を通過した作品を入選とします。 最終審査に向け受入期間内に作品を搬入していただきます。		
最終審査	現物審査	入選作品の現物を審査し、グランプリ以下各賞を決定する

\*作品が以下の【選外事例】のいずれかに該当する場合は選外となる場合があります。

- 【選外事例】
- ① 作品が受入期間内に搬入されない場合
  - ② 搬入された作品が開梱の際破損していた場合
  - ③ 搬入された作品が登録作品画像と異なる場合
  - ④ 搬入された作品が展示に適さないと主催者側が判断した場合

## 11 審査結果の確認方法

各審査の審査結果は、応募登録ページにアクセスし、「マイページ」で確認して下さい。電話等での問い合わせには応じられません。(応募登録ページへのアクセスは4ページ参照)

## 12 賞

このコンペティションの各賞は、以下のとおりです。

賞	賞金	陶芸部門	陶磁器デザイン部門	
			ファクトリー分野	スタジオ分野
グランプリ	500万円	1作品		
金賞	200万円	1作品		
銀賞	100万円	1作品	1作品	1作品
銅賞	50万円	2作品	1作品	1作品
審査員特別賞	10万円	5作品	5作品	
入選	—	上記を除く160～180作品程度		

※グランプリ受賞者は表彰式に招待します。(往復の交通費及び宿泊費は主催者が負担)

※賞金には税金がかかる場合があります。

※各入賞・入選作品に対し、本展作品集(以下「図録」という。)を1冊進呈します。

### 〈坂崎重雄セラミックス賞〉

このコンペティションでは上記の賞とは別に、若手作家の逸材の輩出を目的に「坂崎重雄セラミックス賞」を2011年第9回から設置しています。

① 対象: 応募締切時点で40歳以下の応募者(個人)

② 賞金: 各50万円(陶芸部門1作品、陶磁器デザイン部門1作品)

※この賞金は、多治見陶磁器卸商業協同組合が設置する「坂崎重雄陶磁器産業後継者育成基金」から負担していただいております。

### 坂崎重雄(1922～2015)

1986年第1回の開催にあたり、この美濃焼の産地において行われる国際陶磁器コンペティションのPRのため、美濃陶芸協会の方々と世界各国を奔走し、開催実現に導いた功労者。

## 13 グランプリ及び金賞作品の寄贈について

グランプリ及び金賞作品は岐阜県現代陶芸美術館への寄贈となりますのでご承知おき下さい。歴代グランプリ・金賞作品と共に同美術館の収蔵作品として大切に保管し、国際陶磁器展美濃を回顧する展示企画などにおいて展示します。

## 14 入賞・入選作品の展示・公開

入賞・入選作品は、2024年開催予定の「第13回 国際陶磁器展美濃」にて展示します。また、図録や主催者のホームページへの掲載により公開します。

## 15 諸権利

応募作品に係る著作権及び工業所有権等に関する権利は、応募者にあります。したがって、応募の際は、必要に応じて応募者において意匠登録等の手続きをして下さい。

なお、主催者には、入賞・入選作品の展示及び図録の出版に関する権利、その他主催者が発行・許可する印刷物・ホームページ等への掲載に関する権利があることをご了承下さい。

# 応募登録

## 1 応募方法

以下の(1)～(3)の手順に従って応募して下さい。郵送による応募はできません。

### (1) 応募登録ページへのアクセス

国際陶磁器フェスティバル美濃公式ホームページから応募登録ページにアクセスして下さい。

アドレス: <https://www.icfmino.com>

QRコード:



### (2) 応募者情報の登録

- ① メールアドレスを登録して下さい。  
(折返し主催者からメールを送信します)
- ② 届いたメールに記載されたURLから応募者情報登録ページにアクセスして下さい。
- ③ 「個人・グループ応募」か「企業応募」を選択して下さい。
- ④ 氏名(会社名)以下、登録フォームに従い必要事項を入力して下さい。
- ⑤ 次の規定に基づいて、応募者の画像データを添付して下さい。

	画像データ	形式	容量上限
個人・グループ応募の場合	顔写真	JPEG	4MB
企業応募の場合	会社のロゴマーク	PDF	4MB

※入賞・入選者の顔写真又は会社のロゴマークは、図録作成時に使用します。

### (3) 応募作品の登録

- ① 応募者情報の登録が完了するとマイページメニューに進みます。
- ② 応募する部門を選択して下さい。
- ③ 作品名、作品サイズ、制作意図等、登録フォームに従い必要事項を入力して下さい。  
※英語欄がある項目は、英語も入力してください。  
入力がない場合は主催者による自動翻訳機での翻訳となります。  
※制作意図は400文字以内で入力して下さい。
- ④ 次の規定に基づいて、作品画像データを添付して下さい。

形式	JPEG形式に限る
容量上限	4MB
数量	正面の画像1枚、角度を変えた画像2枚の合計3枚
その他	組作品は必ず全体を1枚の画像に収めること

※規定と異なる画像データは、応募を受け付けることができません。

- ⑤ 複数の作品を応募する場合は上記②～④の手順を繰り返して下さい。  
各部門3作品まで応募できます。

## 2 その他の注意点

- ① 登録フォームに入力する言語は、日本語又は英語に限ります。それ以外の言語で入力されている場合は応募を受け付けることができません。
- ② 応募受付は日本時間2024年1月31日午後5時までの受信分をもって締め切り、それ以降は、受信機能を停止します。理由の如何にかかわらず、締め切り後は、応募を受け付けることができませんので、余裕をもって応募して下さい。

## 《2次審査通過者のみ対象》

# 作品の搬入・返却

## 1 2次審査通過後のスケジュール

項目	時期
2次審査通過者への必要書類の送付	2024年4月中旬～下旬
作品搬入(海外)	2024年7月8日～7月12日
作品搬入(国内)	2024年7月22日～7月28日
作品搬入(自己搬入)	2024年7月27日～7月28日
最終審査(作品現物審査)	2024年8月3日～8月4日
最終審査結果の通知	2024年8月下旬
作品返却 (自己搬入・応募者手配の輸送会社)	2024年11月17日閉会後～11月18日
作品返却 (主催者手配の輸送会社)	第13回国際陶磁器展美濃終了後、 6ヶ月以内

## 2 作品の搬入

2次審査通過者には、2024年4月中旬～下旬に下表の書類を送付します。No.3「注意事項書」をよくお読みいただき下記【A】又は【B】により作品を搬入して下さい。

※作品の展示において、壁・照明・装飾品などの個別の器具・備品等が必要な場合は、応募者自身で用意し搬入して下さい。

No.	種類	備考
1	審査結果	2次審査を通過した旨を文書にてお知らせします
2	作品搬入通知文書	作品の搬入についての案内
3	注意事項書	作品の搬入に関する注意事項
4	作品ラベル	作品の所定の箇所に必ず貼付して下さい (注意事項書参照)
5	梱包ラベル	梱包箱の所定の箇所に必ず貼付して下さい (注意事項書参照)
6	クレジットラベル	(海外の方のみ)作品に同梱して下さい

### 【A】国内から搬入する方

輸送と自己搬入の2通りの方法があります。以下の要領に従って搬入して下さい。

#### (1)費用負担

作品の搬入に係る輸送費・保険料等全ての費用は応募者の負担となります。

保険については5ページの「5 保険」を参照して下さい。

#### (2)作品受入期間

輸送の場合: 2024年7月22日～7月28日

自己搬入の場合: 2024年7月27日～7月28日

この期間に作品が到着せず2ページ記載の【選外事例】に該当となっても、主催者は責任を負いません。

#### (3)輸送先及び自己搬入先

前記の送付書類No.2「作品搬入通知文書」にてお知らせします。

## 【B】海外から搬入する方

輸送でのみ受け付けます。以下の要領に従って搬入して下さい。

### (1) 費用負担

作品の搬入に係る輸送費・税金・保険料等全ての費用は応募者の負担となります。

ただし、日本での輸入関税・消費税については、主催者で「再輸出免税制度」の申請を行いますので、次の取扱いとなります。

(その際、輸送会社は主催者の指定となります)

展示会終了後の作品の取扱い	輸入関税・消費税
① 返却のため作品を再輸出する場合	免税
② 作品を再輸出せず廃棄処分する場合	免税
③ 作品を再輸出せず日本国内に留まる場合	遡って課税*

\*このコンペティションにおいては、展示会終了後の作品の取扱いは①か②のどちらかとします。③のケースは、原則、グランプリ・金賞受賞作品の美術館への寄贈のみとし、その際の輸入関税・消費税は主催者が負担します。

保険については、このページの「5 保険」を参照して下さい。

### (2) 作品受入期間

2024年7月8日～7月12日

この期間に作品が到着せず2ページ記載の【選外事例】に該当となっても、主催者は責任を負いません。

### (3) 輸送先

前記の送付書類No.2「作品搬入通知書」にてお知らせします。

## 3 作品の返却

返却希望作品は、①主催者手配の輸送会社による返却、あるいは②自己搬出又は応募者手配の輸送会社による返却のいずれかの方法で返却します。

### (1) 返却方法

#### ① 主催者手配の輸送会社による返却

返却は、輸送費前払いとなります。支払の確認ができ次第、作品の返却作業を行います。

#### ② 自己搬出又は応募者手配の輸送業者による返却

作品搬出期間：2024年11月17日(閉会后～20:00)  
及び11月18日(10:00～17:00)

主催者は、応募者手配の輸送業者に係る事務は行いません。各自で手続きして下さい。

### (2) 費用負担

作品の返却に係る輸送費・税金・保険料等全ての費用は応募者の負担となります。

保険についてはこのページの「5 保険」を参照して下さい。

### (3) その他

2ページ記載の【選外事例】に該当し選外となった場合は、別途返却方法について協議します。

## 4 返却を希望しない作品の取扱い

(1) 次の場合は、「返却を希望しない作品」とみなします。

① 登録フォームの搬出方法において「返却不要」が選択されている場合

② 支払期限までに作品返却に係る輸送費が支払われない場合

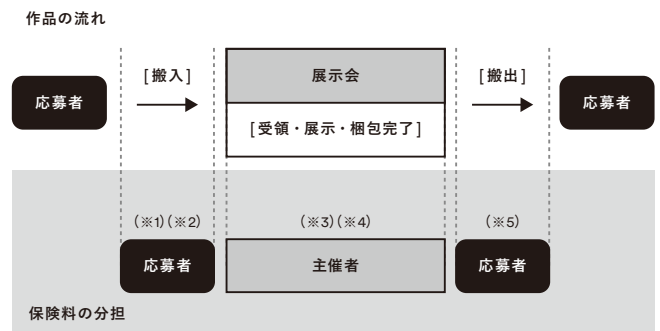
(2) 返却を希望しない作品については、所有権を放棄したとみなし次のとおり取り扱いますので、予めご了承下さい。

① 主催者において処分します。

② 寄贈・譲渡等の仲介は行いません。

## 5 保険

作品の破損等に関する保険の取扱いは以下のとおりとします。



※1 主催者が作品を受領するまでの保険料は応募者の負担となります。必要に応じて応募者で保険をかけて下さい。

※2 作品の破損等の状態によっては、2ページ記載の【選外事例】に該当する場合がありますので、作品の梱包には十分注意して下さい。

※3 作品受領後、展示会開催期間中ならびに展示会終了から梱包完了までの保険料は主催者が負担します。ただし、保険金の額は1作品につき上限30万円とします。

したがって、海外から輸送する際にインボイスに記入する作品評価額は30万円以下として下さい。

※4 作品受領後、主催者はその管理に万全の注意を払いますが、天災その他の不可抗力による破損等については責任を負うことができません。

※5 梱包完了後から応募者が作品を受領するまでの保険料は応募者の負担となります。必要に応じて応募者で保険をかけて下さい。

## 審査員

次の10名の審査員で審査を行います。

## Judges

These 10 experts make up our panel of judges.

国名は在住国を示します。

The country name indicates their country of residence.

## 陶芸部門 Ceramic Arts Category

### 菅谷 富夫 審査員長

日本

大阪中之島美術館 館長

近代デザイン、写真、現代美術

1958年千葉県生まれ。財団法人滋賀県陶芸の森学芸員、大阪市立近代美術館建設準備室学芸員を経て2017年より大阪中之島美術館準備室長。2019年初代館長に就任。近代デザイン、写真、現代美術の分野を担当する一方、新しい美術館整備ならびに運営を統括。館外においても上記分野の批評・評論活動を多数行う。

### Sugaya Tomio The Chief Judge

Japan

Director of Nakanoshima Museum of Art, Osaka

Modern design, Photography, Contemporary Art

Born in Chiba in 1958. He served as a curator at the Shigaraki Ceramic Cultural Park and at the Osaka City Museum of Modern Art Planning Office before being appointed deputy director of the Nakanoshima Museum of Art, Osaka Planning Office in 2017. He became the first director of the museum in 2019. In charge of supervising the establishment and the operation of the new museum, as well as the fields of modern design, photography, and contemporary art. Also actively engaged in criticism and commentary in these fields.

### 田嶋 悦子

日本

陶芸家 / 大阪芸術大学 教授

陶芸

大阪芸術大学工芸学科陶芸専攻卒業(1981)、「土と炎展」岐阜県美術館(1987)、第9回咲くやこの花賞美術部門(1992)、「現代陶芸の若き旗手たち」愛知県磁器資料館(1996)、第15回タカシマヤ美術賞、「非情のオブジェ-現代工芸の11人」東京国立近代美術館工芸館(2004)、日本陶磁協会賞(2005)、「田嶋悦子展」岐阜県現代陶芸美術館(2010)他、「田嶋悦子 花咲きぬ」石川県能登島ガラス美術館(2019)

### Tashima Etsuko

Japan

Ceramist / Professor of Osaka University of Arts

Ceramic Art

Graduated from Osaka University of Arts, Crafts Department, Ceramic Course (1981), "Exhibition of Earth and Flames" at The Museum of Fine Arts, Gifu (1987), The 9th Sakuya-Konohana Award, Art Division (1992), "The expression and the potential in contemporary ceramics" at Aichi Prefectural Ceramic Museum (1996), The 15th Takashimaya Art Award, "Cool & Light: New Spirit in Craft Making" at National Crafts Museum (2004), The Japan Ceramic Society Award (2005), "Tashima Etsuko Exhibition" at Museum of Modern Ceramic Art, Gifu (2010) and more, "Tashima Etsuko Hanasaku" at Ishikawa Prefecture, Notojima Glass Art Museum (2019)

### ルパート・フォークナー

イギリス

ヴィクトリア&アルバート博物館 名誉研究フェロー

日本陶磁史と現代日本の工芸・デザイン

横浜で生まれ、英国で教育を受ける。2021年5月にロンドンのヴィクトリア アンド アルバート博物館(V&A)の上級キュレーター(日本担当)を退職。1995年に開催された「Japanese Studio Crafts: Tradition and the Avant-Garde」展(日本の工芸: 伝統と前衛)を監修し、同名の書籍を出版。2005年に「国際美術工芸展」の日本部門を主催し、同博物館の最上階の陶芸ギャラリーの改装に大きな役割を果たす。また、同博物館の東芝日本ギャラリーの大幅改修と再展示が、主任キュレーターとして最後の主要な事業。

### Rupert Faulkner

United Kingdom

Honorary Senior Research Fellow of Victoria and Albert Museum

Historical Japanese Ceramics and Contemporary Japanese Craft and Design

Born in Yokohama and educated in the UK, he retired in May 2021 as Senior Curator for Japan at the Victoria and Albert Museum (V&A) in London. He curated the exhibition "Japanese Studio Crafts: Tradition and the Avant-Garde" (1995) and published a book of the same title. He organized the Japanese section of the "International Arts and Crafts exhibition" (2005), after which he played a major role in the refurbishment of the museum's top-floor ceramics galleries. His last key undertaking was the upgrade and redisplay of the V&A's Toshiba Gallery of Japanese Art, for which he was lead curator.

### クラウディア・カザーリ

イタリア

美術史家 / ファエンツァ国際陶芸美術館 館長

現代美術、美学、美術評論家

イタリアのウーディネ大学にて文化遺産の保存研究で学位を取得したのち、現代美術と美学の博士号を取得。2011年よりファエンツァ国際陶芸美術館の館長を務め、ファエンツァ賞の責任者でもある。歴史雑誌「ファエンツァ」のディレクター。ヴェローナのパラッツォ・フォルティ主要展示イベントをコーディネートし、ポーレンヤのGAM(現MAMBO)とも協力して、ポーレンヤ文化首都2000に捧げる主要展示イベント(ロムブラ・デッラ・ラギオーネ)を担当。2020年9月より、ICOMイタリア(エミリア・ロマーニャ州)のコーディネーターを務める。

### Claudia Casali

Italy

Art Historian / Director of International Museum of Ceramics in Faenza

Contemporary Art, Aesthetic, Critic of Art

Degree in Preservation of Cultural Heritage, PhD in Contemporary Art and Aesthetics at the University of Studies in Udine. Since 2011, she has been Director of the International Museum of Ceramics in Faenza where she is responsible of the Faenza Prize. The director of the historic magazine "Faenza". Coordinated the major exhibition events of Palazzo Forti in Verona, and also collaborated with the GAM of Bologna (now MAMBO) for the main exhibition event (L'ombra della Ragione) dedicated to Bologna Capital of Culture 2000. Since September 2020 she has been the coordinator of ICOM Italy - Emilia Romagna Region.

### 趙 惠暎(チョ・ヘヨン)

大韓民国

韓国美術デザイン協会会長

ロエベ財団クラフトプライズ専門審査員(2020年~)

フリーのアートディレクター・キュレーター

現代工芸

国際的なフリーのキュレーター。キュレーションの実践において革新的な普及をおこなう。名高い美術館や組織で活動。スタジオアーティストからキュレーター、アートディレクター、管理者へと昇進。韓国工芸デザイン財団の事務局長を務める。文化資産の輸入に注力。2013年に京畿世界陶磁ビエンナーレで国際委員、2015年に清州市クラフトビエンナーレのアートディレクター、2016年~2018年はV&A博物館の韓仏交流130周年記念でゲストキュレーターを務めるなど多数。西イングランド大学ブリストル校を卒業後、梨花女子大学大学院で修士号を取得。

### Cho Hyeyoung

Republic of Korea

Chairperson of the Korea Association of Art and Design

Loewe Foundation Craft Prize Expert Panel (jury member since 2020)

Independent Art Director-Curator

Contemporary Crafts

International recognized independent curator personifying the practice of radical sharing in her curatorial practice. She works for acclaimed museums and organizations. Began as a studio artist, working her way up to curator, artistic director, and an administrator. Served as Secretary General for KCDF. Committed to importing cultural assets. Worked as International Commissioner in the GICB 2013; as Art Director for the Cheongju Craft Biennale 2015; Guest Curator of the 130 Years of Korea-France Relations at V&A 2016-2018 and more. Graduated from University of the West of England, Bristol. Received her master's degree in Ewha Women's University.



## 陶磁器デザイン部門 Ceramics Design Category

石崎 泰之 審査員長

日本

岐阜県現代陶芸美術館 館長

陶磁論・陶芸論

1960年愛媛県松山市生まれ。筑波大学芸術専門学群芸術学専攻(美術史)を1983年に卒業後、東京の都立高校で12年間教壇に立つ。1995年から山口県の専門学芸員として県立秋美術館・浦上記念館の開設準備に従事。翌年同館に赴任し東洋陶磁と教育普及を担当、2002年からは研究対象を萩焼ほか日本陶磁の茶陶や近現代陶芸に広げ、併せて担当。2021年に定年退職し同年に現職に就く。

Ishizaki Yasuyuki The Chief Judge

Japan

Director of Museum of Modern Ceramic Art, Gifu

Theory of Ceramics and Ceramic Art

Born in Matsuyama City in 1960. After graduating from the University of Tsukuba in 1983 with a major in art history, He worked as a teacher at metropolitan high schools of Tokyo for 12 years. From 1995, engaged in preparations for the opening of Hagi Urugami Museum as an expert curator of Yamaguchi pref. Transferred to the museum the following year, and was in charge of oriental ceramics and educational dissemination. In 2002, expanded his research to include Hagi ware, Japanese tea ceremony ceramics, and modern and contemporary ceramics. Retired in 2021 and took his current position.

吉田 龍太郎

日本

Time & Style 代表

家具、テーブルウェアのインテリアプロダクト

1964年生まれ。高校卒業後、単身渡独し、1990年ドイツ・ベルリンにてPrestige Japanを設立。1992年には日本に株式会社プレステージジャパンを立ち上げ、1997年、Time & Styleの1号店をオープン。現在、ミラノ、オランダ、東京、大阪でインテリアショップ「Time & Style」を運営。日本のものづくりを通して、現代の生活をベースとしたプロダクトを企画・製作し、国内外へ発信。

Yoshida Ryutaro

Japan

CEO of Time & Style

Furniture and tableware interior products

Born in 1964. After graduating from high school, he went to Germany by himself and established Prestige Japan in Berlin in 1990. He established Prestige Japan Inc. in Japan in 1992 and opened the first Time & Style store in 1997. Currently, he manages Time & Style interior stores in Milan, the Netherlands, Tokyo, and Osaka. Through Japanese craftsmanship, he plans and produces products based on modern life and distributes them domestically and internationally.

山田 節子

日本

株式会社トゥイン代表 / デザインコーディネーター

生活文化の提案・企画・推進

1966年多摩美術大学デザイン科卒業。卒業後、柳宗理先生より薫陶を受ける。1968年松屋銀座とのご縁が生まれ、以後今日までコーディネーターとして、売場企画・商品提案・展覧会企画などを手掛ける。一方、各地の企業・団体・デザイナー・工芸家・クラフトマン等々、様々な方々との取り組みの中で「過去を忘れず自然と共存する生活」を願い、提案し続ける。2000年より東京銀座にギャラリー「厨子屋」の開廊を企画し、現代の暮らし・人の心に届く「祈りのかたち」を提案。

Yamada Setsuko

Japan

CEO of Twin Inc. / Design Coordinator

Proposal, Planning and Promotion of Culture of Life

Graduated from Tama Art University in 1966 with a degree in design. Trained by Mr. Yanagi Sori, and associated with Matsuya Ginza in 1968, where she has been involved in sales, product proposals and exhibition floor planning as a coordinator ever since. Continues to make proposals hoping of "living in harmony with nature without forgetting the past" through working with various people, including companies, organizations, designers, artists and craftsmen in various regions. In 2000, she planned the gallery "Zushiya" in Ginza, Tokyo, and proposes "forms of prayer" that reach the hearts of people and their contemporary lifestyles.

パトリック・レイモン

スイス

建築家 / デザイナー / アトリエ・オイ 共同創設者

建築、インテリアデザイン

1962年スイス生まれ。1991年アルマン・ルイ、オーレル・エビと共にアトリエ・オイを設立。アトリエ・オイは、チームワークや素材との親密なアプローチのもと、30年にわたり、ジャンルの壁を越え、多分野にわたる創造性を育むことに努めてきた。彼らの直感的で感情的な親和性から生まれたアトリエ・オイは、建築、インテリアデザイン、プロダクトデザイン、セノグラフィなど、分野を超えたコラボレーションにより、モノから空間までの多岐に渡る活動の展開をみせている。自然や天然素材に強い関心を持ち、それらを変化させることにより情緒的で職人的なプロジェクトを実現。

Patrick Raymond

Switzerland

Architect / Designer / Co-founder of atelier oi

Architecture and Interior Design

Born in 1962 in Switzerland. With Armand Louis and Aurel Aebi, he founded atelier oi in 1991. With a team spirit and an intimate rapport with materials, atelier oi has been striving to dissolve barriers between genres and foster transdisciplinary creativity for 30 years. Born of their intuitive and emotional affinity, they work across architecture, interior design, product design and scenography with a collaboration across disciplines, creating holistic solutions from object to space. They have a strong interest in nature and natural materials, and their expertise in transforming these enables them to realize projects that are both emotional and artisanal.

横山 いくこ

香港

M+ リード・キュレーター

近現代デザイン&クラフト

香港にある視覚芸術の新美術館M+のデザイン&建築リード・キュレーター。それ以前はストックホルムを拠点にコンストファック/スウェーデン国立芸術工芸デザイン大学の展示主任、及びフリーのキュレーター、ライターとして活動。2008年よりデザインやアートのリサーチ&プロダクションを行うNPO「Editions in Craft」を主宰し、主に南アフリカでのプロジェクトに関わる。ICAM国際建築美術館連盟執行役員。文化庁文化審議会専門委員。

Yokoyama Ikko

Hong Kong

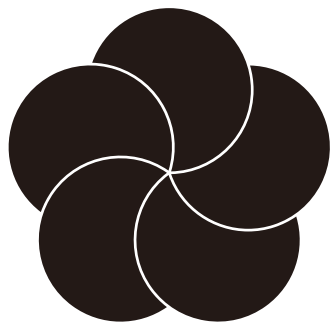
M+ Lead Curator

Modern & Contemporary Design & Craft

She is a lead curator of design and architecture at M+, Hong Kong's new museum for visual culture. Prior to that, served as a head of exhibitions at Konstfack University College of Arts, Crafts and Design in Stockholm and as an independent curator and writer. In 2008, she cofounded "Editions in Craft", a production platform that encourages collaborations among artists, designers, and craftspeople and worked on the projects mainly in South Africa. Currently, serves as an executive committee member of the ICAM International Confederation of Architectural Museums, expert member of the Council for Cultural Affairs in the Agency of Cultural Affairs, Government of Japan.

# 作品募集ポスター等のデザインについて

## Design of Call for Entries Posters and other printed materials



やきもの・陶磁器  
Ceramics

素材としての土(菊練り)  
Clay as a material (spiral wedging)

日本の美意識  
Japanese Aesthetics

岐阜県及び4市(多治見-瑞浪-土岐-可児)  
Gifu Prefecture and 4 cities



釉薬  
Glaze

焼成による完成  
Completed by firing

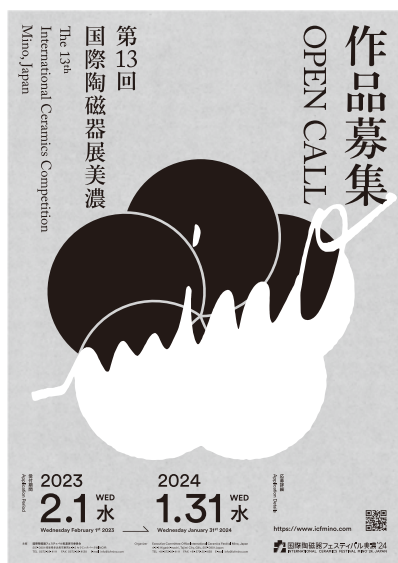
美濃焼の可能性  
Possibilities of Minoyaki

モーションロゴによる期待感  
Creating a sense of anticipation  
with the motion logo

メインビジュアル  
B2 / A2 ポスター

Main Visual  
B2 / A2 Poster

白  
White



陶磁器の図柄が変化することで  
新しい表現への可能性を示唆

The changing ceramic pattern suggests  
new possibilities for expression.

白から銀、銀から金へと変化する釉薬の色は  
やきものの未来と多様性を表現

Glaze colors changing from white to  
silver and silver to gold represent  
the future and diversity of ceramic arts.

A4 フライヤー  
A4 Flier

銀  
Silver

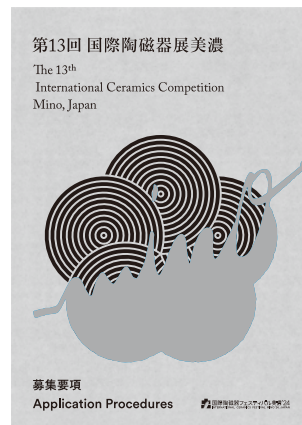


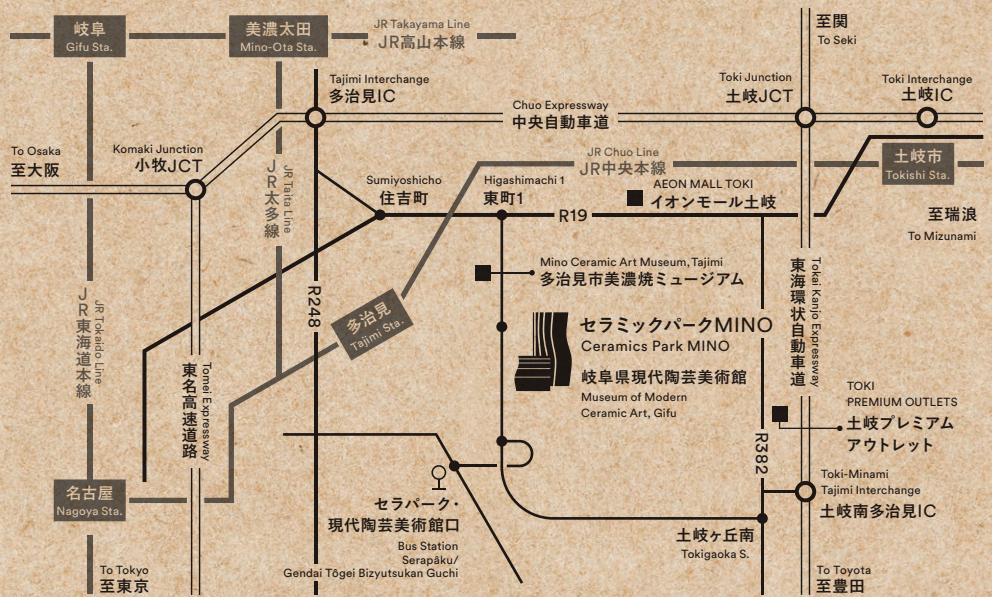
作品募集要項

Application Procedures

金

Gold





## お問い合わせ

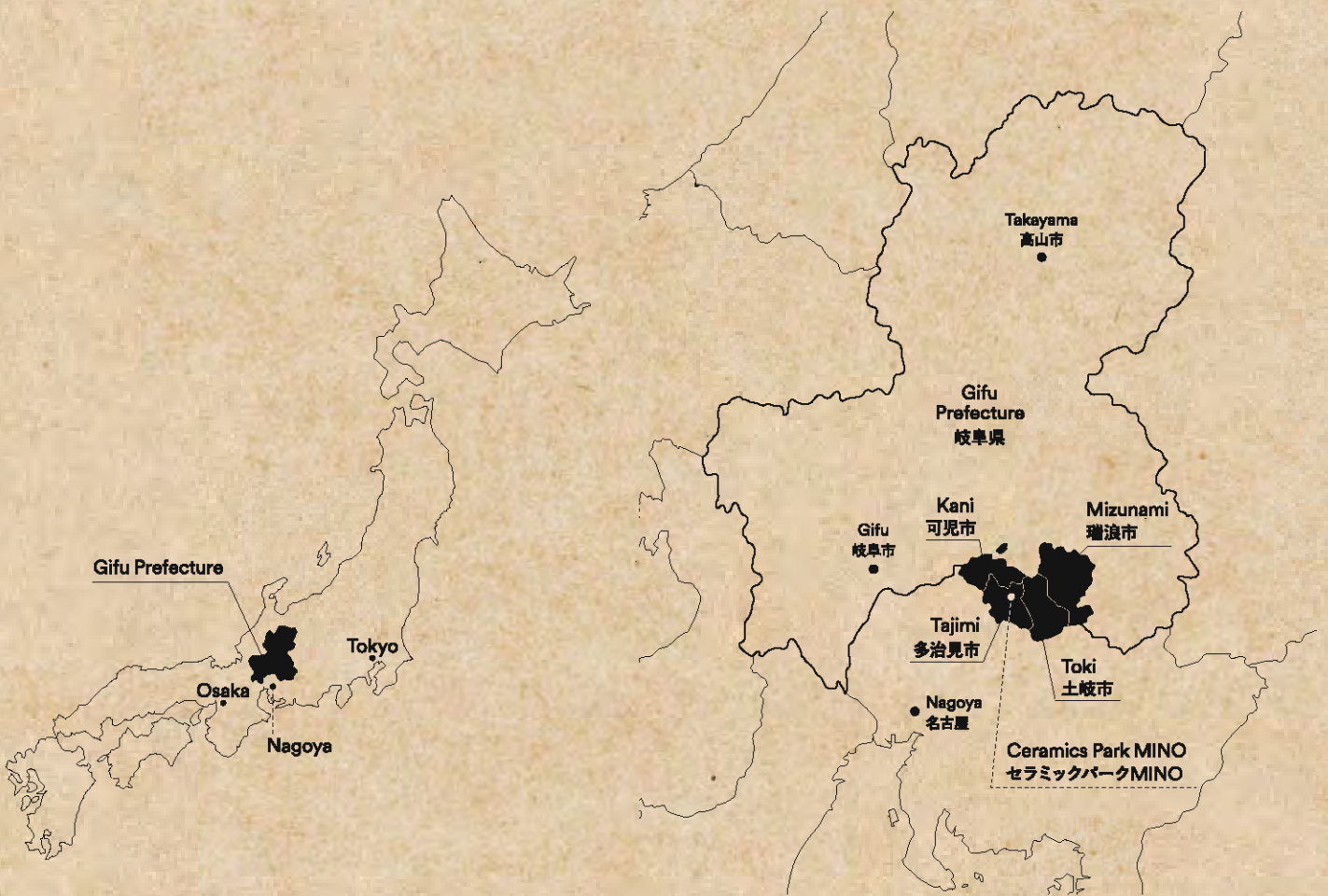
応募に関するお問い合わせはFAX又はe-mailをお願いします。  
日本語又は英語に限りです。

国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会事務局  
〒507-0801  
岐阜県多治見市東町4-2-5 セラミックパークMINO内  
FAX: 0572-25-4138  
e-mail: info@icfmino.com

## Inquiries

Inquiries regarding the application should be sent by fax or e-mail in Japanese or English only.

Executive Committee Office  
International Ceramics Festival Mino, Japan  
Ceramics Park MINO 4-2-5 Higashi-machi, Tajimi City,  
Gifu 507-0801 Japan  
FAX: +81-572-25-4138 e-mail: info@icfmino.com



国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会  
 507-0801 岐阜県多治見市東町4-2-5 セラミックパークMINO内  
 TEL 0572-25-4111 e-mail info@icfmino.com  
 FAX 0572-25-4138 URL https://www.icfmino.com

Executive Committee Office  
 International Ceramics Festival Mino, Japan  
 Ceramics Park MINO 4-2-5 Higashi-machi, Tajirimi City, Gifu 507-0801 Japan  
 TEL +81-572-25-4111 e-mail info@icfmino.com  
 FAX +81-572-25-4138 URL https://www.icfmino.com